

被災した方々の生命と暮らしを守るために、今私達に出来る事を

2017年 九州北部豪雨災害 災害支援ナース活動レポ

平成29年7月5日(水)に発生した九州北部豪雨災害に伴い、福岡県看護協会は福岡県より派遣要請を受け、 被災者支援のため災害支援ナース75名を派遣しました。



災害概要

災害発生日 平成29年7月5日(水)

被災地域

大分県日田市、福岡県朝倉市・東峰村

災害レベル 日本看護協会7/10付レベル1(大分県看護協会・福岡県看護協会支援対応)

7月5日~6日にかけて、朝倉市付近に線状降水帯が発生し、同じ場所で長時間猛烈な雨が降り続いた。特に朝倉市では1時間に 100mmを越える雨量(12時間で約900mm)を記録し、気象観測史上最大級の集中豪雨となった。災害発生後、7月7日に福岡県看護 協会にて災害対策本部を設置した。

■災害支援ナース75名を派遣

活動場所		第1陣	第2陣	第3陣	第4陣	第5陣	第6陣	第7陣	第8陣
		7/15~17	7/17~19	7/19~21	7/21~23	7/23~25	7/25~27	7/27~29	7/29~31
朝倉市	らくゆう館	2名							
	杷木中学校	2名							
	久喜宮小学校	2名							
	サンライズ杷木	3名	2名	2名	2名	2名	2名	2名	3名
東峰村	喜楽来館		2名						
	いずみ館					3名	2名	2名	2名
計		9名	8名	8名	8名	11名	10名	10名	11名

|災害支援活動を終えて|

第1陣 飯塚病院 吉川 英里さん

私は第1陣として活動させて頂きました。多数の被災者が避難する際、四肢に軽傷を負っており、簡単な洗浄や消毒などを行いました。しかし、被災状況や先が見えない不安など様々な思いを話して頂くことがあり、身体の傷よりも心の傷は大きく精神的サポートの必要性を感じました。また、片付け作業で熱中症を

発症した被災者の対応も行いました。医師の指示がすぐに確認できる病院とは異なり、点滴などの初期対応が出来ないもどかしさと難しさを感じました。机上の研修ではわからない、事実を多面的に捉えてアセスメントし看護実践する重要性を身を持って実感しました。

第2陣 産業医科大学病院 尾崎 美樹さん

私は第2陣として7/17~7/19まで朝倉郡のらくゆう館に派遣されました。第1陣により適切な情報収集やアセスメントに基づいた看護計画の立案がなされており、派遣初日からその避難所の問題点や介入事項が理解できました。しかし、災害時は刻々と状況が変わります。その時々でCSCA(災害医療実践のための体系的アプローチCommand&Control/Safety/Communication/

Assessment)を念頭に置き、避難者の自立を妨げない介入を心がけました。2泊3日では自分達の活動の成果を見出すことは難しいかもしれませんが、8陣75名の支援ナースが繋いたバトンには大きな成果、思いがあると思います。

快く送り出してくれた病院や後方支援をして下さった福岡県看 護協会に深く感謝致します。

第8陣 済生会八幡総合病院 出口 智宏さん

私は第8陣として7/29~31まで東峰村の指定避難所、いずみ館で支援活動を行いました。いずみ館は東峰村の温泉施設で、沢山の被災された方々が入浴に訪れていました。日中は自宅の片づけでみなさんが帰宅されていますが4世帯4名の方が避難され、夜間は8世帯12名の方が避難されていました。

避難所での活動内容は、被災された方々の生活支援を行う ために速乾性擦式手指消毒剤の設置や健康相談では血圧測 定を行いました。日中は保健師の方が運営されており、夜間帯は支援ナースが館内を巡回し被災された方々が安全で安心な生活を送れるように見守りを行いました。被災者の方々から「暗くなると怖くて不安です。でも、みなさんが夜間いることで安心して眠ることができました。」と言葉をいただきました。私たちの活動が被災された方々の生活支援に繋がっている事を実感しました。そして、1日でも早い復興を願っています。